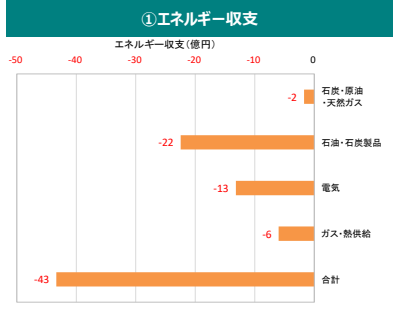
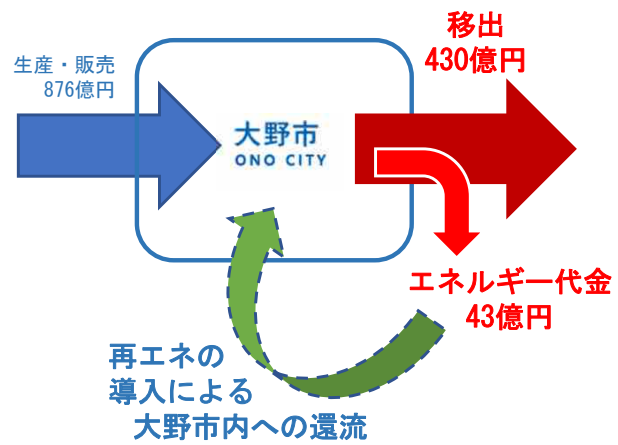


大野市脱炭素ビジョンの策定経過 (概要版)

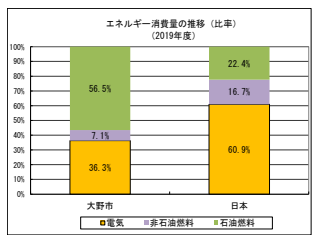


地域経済の循環

大野市の地域経済の現況と経済循環のイメージ



出典：経済分析システム2015年度（環境省・財団法人総合研究所）



資料：大野市

大野市から毎年**430億円**が域外に流出しています。また、主に石油・石炭製品（ガソリンや灯油など）、電気の購入費用として、エネルギー代金の**43億円**が流出しています。そのため、石油から電気への燃料転換と再生エネ導入による地域内での電気の自給について検討する必要があります。



目的

- 2050年にゼロカーボンシティ（※）が実現している望ましい姿を描きます
- 自然的、社会的、経済的な地域課題との同時解決が図られる取組方針を検討します
- 再生エネ導入等を通じ、人、モノ、カネが地域で循環する地域循環型社会の実現を目指します

【地域課題】

- 再生エネの普及
- 再生エネ人材等の育成
- 耕作放棄地等の活用
- 豊富な森林資源の活用
- 雇用創出（企業誘致、産業創出）
- 事業継続性の強化（民間）
- 老朽化した公共施設の更新
- エネルギー収支改善（約43億円が域外へ流出） など

【脱炭素化】

- 再生エネの導入
 - 太陽光
 - 木質バイオマス
 - 小水力
 - 廃棄物系バイオマス
 - 水素 ほか
- 省エネの実施
- 蓄電池、EVの普及 など



同時解決!! → **2050年 ゼロカーボンシティの実現**
 = 市民の**ハッピーな暮らしの実現**

※ゼロカーボンシティ：2050年にCO2の排出量と吸収量が差し引きゼロ（カーボンニュートラル）が達成している都市



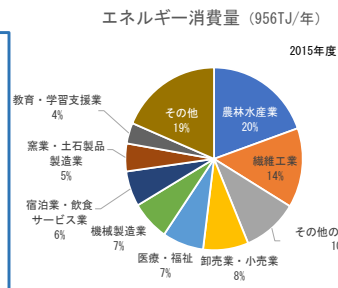
地域の状況



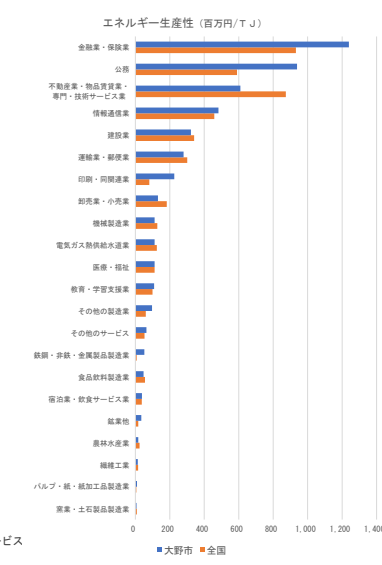
出典：第六次大野市総合計画

大野市の人口減少は全国よりもペースが早く、約10年後には**4,500人減少**（減少率**15%**）

エネルギー消費量が多い農林水産業や繊維工業は**エネルギー生産性が低くなっています**。エネルギーの使い方や、未利用資源の活用による**エネルギー使用の効率化**について検討する必要があります。



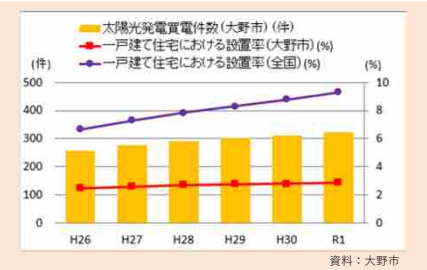
※エネルギー生産性は消費したエネルギー（TJ）あたりに稼いだ付加価値額（百万円）を示し、環境と経済の両立を図る指標の一つ



出典：経済分析システム2015年度（環境省・財団法人総合研究所）

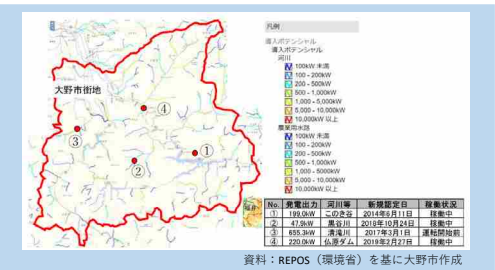


再生可能エネルギーの導入状況



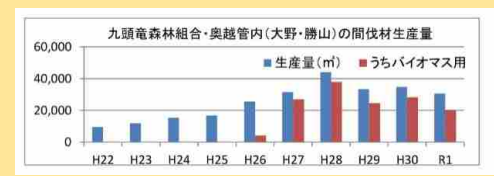
資料：大野市

戸建て住宅への太陽光発電の導入比率はほぼ横ばい状態であり、**導入が進んでいません**。



資料：REPOS（環境省）を基に大野市作成

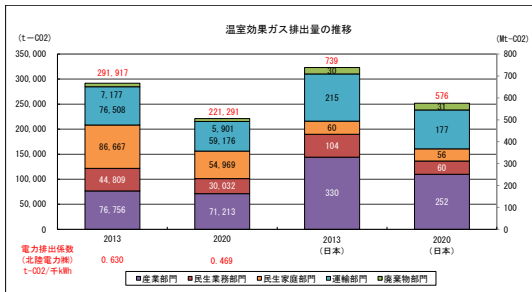
小水力発電は豊富な**ポテンシャル**あり。FIT制度認定を受けて3件が稼働中、1件が整備段階にあるなど、民間主導で利活用が進められています。



資料：大野市

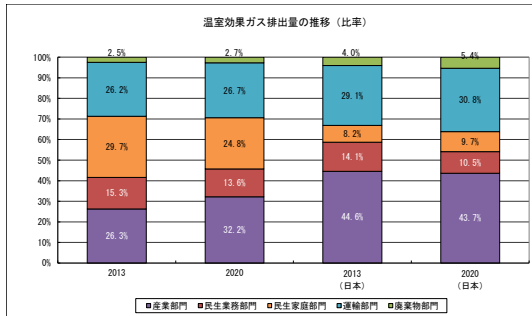
大規模な木質バイオマス発電所（出力**7,350 kW**）が平成28年から稼働。間伐材の生産量は、一時的な増加の後は減少傾向にあり、木質バイオマスの**生産体制の拡充**が課題となっています。

現況



2020年度の排出量は**221,291 t-CO2**であり、近年では減少傾向にあり、2013年度比(国の基準年度)で**約24%減少**しています。

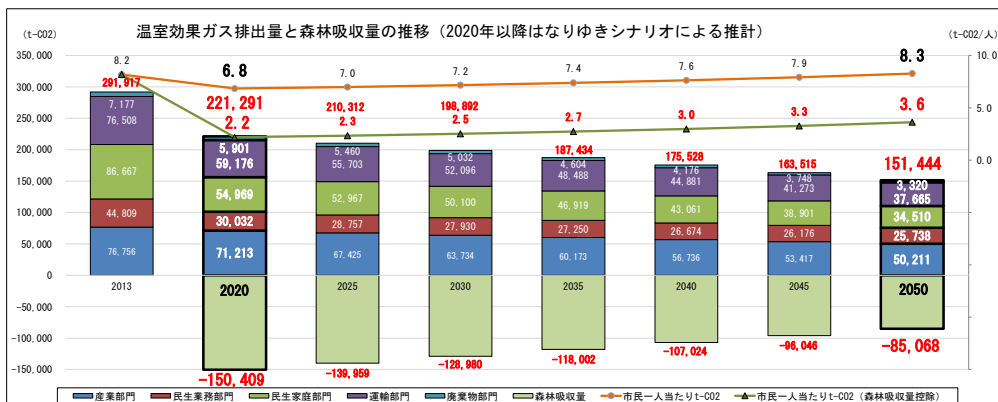
民生業務で約33%、民生家庭部門で約37%と減少率が高くなっています。これは、使用量自体の減少に加えて、電力事業者の再生エネの導入等による電力排出係数の低下が要因の一つです。日本全体でも同様に減少傾向が見られます。



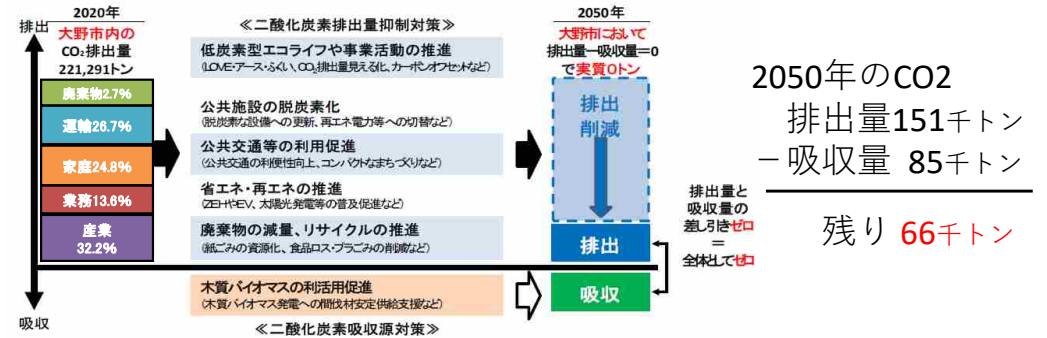
部門別での比率では、産業部門が約32%と最も多いが、日本全体での比率と比較すると約12%も低く、逆に民生家庭部門の比率が15%も高くなっています。産業・民生・運輸、ほぼ同じ割合であることから、**全ての部門**において脱炭素化に向けた取組を進める必要があります。

将来

2050年にはどうなる??



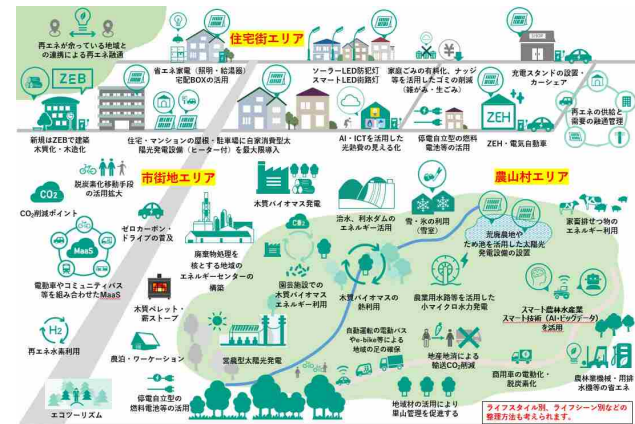
特に対策を実施しない(なりゆき)場合の2050年の温室効果ガスの排出量は人口の減少等の影響により現況から大幅に減少しますが、市民一人当たりの排出量は**年々増加**します。森林による吸収量を控除しても、2050年度には約66,000 t-CO2が排出量として残り、このままでは2050年度に**カーボンニュートラルが達成できません**。



66千トンを削減するには・・・

- 杉 (1本あたり吸収量14kg) 約471万本分
 - 杉 (1haあたり1,700本) 約2,800ha分
 - 大野市民 (1人あたり1,700kg/年) 約38,800人分
 - 車 (1台あたり1,327kg/年) 約49,700台分
- ※環境省・林野庁参考 ※大野市の市街地面積のほぼ半分 ※2020年の家庭部門、運輸部門の排出量をそれぞれ人口及び保有台数で割って算出

大野市の2050年のイメージ (案)



第1回大野市脱炭素ビジョン策定協議会で得られた主な検討課題

- 積雪等の大野市の気候に適応した太陽光発電や豊富な水源を活用した発電の検証
- 木質バイオマスの利活用を増やすには需要に対応する**人材、機械等への投資**が必要
- 地域特産物で廃棄されている**未利用資源等の活用**や市内企業との連携など**大野らしさの追求**
- 電気自動車などの導入が進んだ場合の**暮らしへの影響(変化)**についても考えなくてはいけません
- 2050年の主役となる**地域の若い世代とともに協働して取組**を検討していこう!

これらを踏まえ、各地区ワークショップで2050年の望ましい大野市の絵姿を検討